

◎ 新盆を迎える方に

亡くなられて初めて迎えるお盆のことを「新盆」とか「初盆」といいます。初盆とは、生前のご恩に対する感謝の気持ちと、またご先祖様に「安らかに」という願いを込めた、故人を偲ぶ大切な行事です。

49日の後、もしくは忌明けの後に初めて迎えるお盆を「初盆」と呼び、毎年のお盆よりお供えやお飾りを盛大にして、丁寧に供養をします。仏間に祭壇や盆提灯を飾りつけ、季節の生花や野菜、果物、そうめん・餅・団子・故人の好きだった食べ物などをお供えします。

また、故人に縁のある方々がお参りにみえます。

故人への追慕の心も強い時期に迎える新盆ですから、当然、常のお盆より丁寧に、お飾やお供えを心がけたいものです。

新盆の精霊のお位牌を中心に備えます。、新盆用のやかた、やしろうを用意してその中にお位牌をおまつりし、故人の好物だった物をお供えしてお祀りします。地域性もありますが、詳しくは、お寺にお聞きになり新盆をお迎えになるようお勧めいたします。



にいぼん

はつぼん

★ 精霊棚

帰ってこられるご先祖をお迎えするスペースです。家庭の仏壇・仏具を清め、仏壇の前に精霊棚を設けます。精霊棚は一般に小机の上に真菰（まこも）のゴザを敷き、花、季節の野菜や果物、菓子、故人の好物などを供えます。また、キュウリの馬やナスの牛も先祖の霊がこの世との往復に使う乗り物として供えられます。

本文では昔ながらのお棚の飾り方をお知らせしましたが、今では手に入りにくいものもありましょう。現状に合わせて対応してください。例えば、真菰のゴザがなければ清潔な白布で、蓮の葉がなければ小鉢やお皿でよいでしょう。



★ お供え物

・ 閼伽水 蓮の葉に水を注いだもの。（蓮の葉がない場合は、小鉢でもよい）「客のために捧げる水」「仏に供養する水」の意味です。この清水をお供物にミソハギ等をしたして、その滴を供物等にふりそそぎ、清めて捧げるのです。

・ 馬・牛

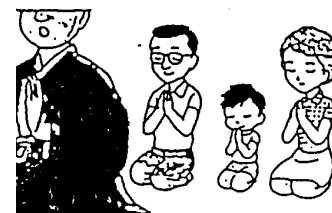
ナスとキュウリにオガラをさして、牛と馬を形どつたもの。

・ 季節の好物

霊前への膳や季節の野菜や果実や花を供える。また、蓮の葉の上にはナスやキュウリの細切りを洗米とまぜたミズノコをお供えする。これは百味飲食（ひやくみおんじき）といって、すべての餓鬼に飲食物の施しのお供えです。ミズノコは、すべての餓鬼に飲食物の施し知識として覚えておいてください。霊前への膳や季節の野菜や果実や花だけでもよいです。

★ お盆の棚経

精霊棚にお参りすることから、お盆のお参りを棚経参りと申します。お参りの日にちは、7日盆と申しますように7日のお盆の入りから15日（処によつたら、16日京都の大文字焼きの送り火のように）の夕暮れの送り火の間です。初盆のお家は、初めてのお盆という事なので7日にお精霊をお迎えして



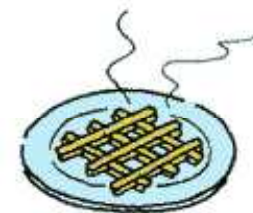
精霊棚におまつりいたします。

7日より棚行参りを致しますので、お早めにお申し込みください。

★ お盆、棚経参りは、古来より 短いお経様です。短い時間ですが、家族揃って、お参りをお願い申し上げます。お参りの時間が近づいたら、ローソク 線香をつけていただきましたら、有り難いです。

★ 交通事情 また、葬儀等で、時間が変更される場合があります。ご了承ください承をお願い申し上げます。

★ 迎え火 お盆の入りの七日（初盆）には迎え火を焚きます。お墓にお参りして、提灯にお灯明をあげて持ち帰る風習もあります。お墓が遠方でお参りできない方、または、その他諸事の理由の方。家庭の玄関先で、折った麻殻を井ゲタに積んだものに火をつけて燃やしたり、お線香をつけて精霊棚に御霊をお迎えします。



お寺からのお知らせ「白菊」 (4)
習わしです。お墓が近い人は、お墓参りをしてお墓で線香をつけそのまま家までその線香を持ち帰ります。その線香の煙にのってお帰りになると、聞き覚えています。これも、昨今の事情で色々様変わりはしてきていますが、お迎えするという気持ちを大切に。

★精霊流し、送り火

迎え火から、お盆の棚経や盆踊りなど一連の行事が、済んだら十五日や十六日に精霊送りをします。家々の門口や川辺などで送り火を焚くほか、川や海に船を浮かべて精霊流しをする地方もあります。精霊流しは、とても風情がある催しなので新しく行う町もあるようです。暗い水面にチラチラと燃える小舟の灯明に、この世とあの世を結ぶ感性が、蘇るとしたら意義があることです。現代は、人工の照明で夜の闇夜が追放される一方、人の心の闇は、深まるばかりです。お盆に迎え火、送り火の明かりに心を向け、また、月の光を浴びて、日頃の多忙の暮らしを離れてみてはいかがでしょうか。ナムアマダブツ 阿弥陀仏・・・



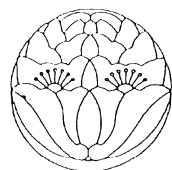
エッセイ
手を合わせ心
「私達も一日一度は祖先に合掌」
お盆がくると、その期間中には盆棚（あるいは精霊棚）と呼ばれる特別な祭壇をつくるならわしである。精霊のお供え方（京都に於て）
これは、仏壇の前の台の上に蓮の葉を敷き、その上にホトケの施食用のホウズキやソーメン、季節の野菜類を供える。ホウズキは提灯、ソーメンは喜びを細く長くという縁起から起こったもので、麺類を使うのは麦の収穫祭を兼ねているかららしい。
棚には普段、仏壇の中に収めてある先祖の位牌を移し、霊前への膳や季節の野菜や果実や花を供える。また、蓮の葉の上にはナスやキュウリの細切りを洗米とまぜたミズノコを作り、別の器には水を入れ、萩の希で供物に注ぐところもある。これは百味飲食（ひやくみおんじき）といって、すべての餓鬼に飲食物の施しをするしぐさである。送り団子は六地藏に供えるところから六つ作ることになっている。こうした供え物は送り盆の十六日に精霊舟にのせて、ホトケと共にあの世に送り出すのであるが、最近はお盆は最寄りの寺院等で集めるようになっていて、
生花や生果を仏前に供える風習は、東南アジア一帯に広く見られるものであり、それこそお盆の時だけでなく、毎朝供えて敬虔な祈りをささげる。われわれも一日に一度は祖先の霊に対して合掌したいものである。
特に生花や生果を仏壇に供えるということは、アメリカやヨーロッパの墓前に見かける色あせた造花の供養より、よほど供えた人の人間味があふれているように思われるのである。



阿弥陀寺だより

ただ一向に念仏すべし

お寺からのお知らせ（新盆号）



浄土宗

★発行日・平成22年7月16日★特別号2★発行・光照山 阿弥陀寺 (Tel. 0744-27-3278 Fax40-7600)



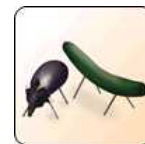
迎え火のうれしさ送り火のさびしさに
そういう人間本然の心にかえって

守られて生きるありがたさを知ろう

坂村真民

せっかく来て下さった方々を
悲しませたり落胆させたり
もう来ないことにしようなどと思わせたりしない
心あたたかいお盆にしよう

亡くなった人たちに会える日を作って下さった
釈迦牟尼世尊に心からお礼を申し上げよう
そして亡くなった人たちが
喜んで来て下さる楽しいお盆にしよう



盆近し ひとりひとりの
位牌よく

明るく・正しく・仲よく

